

調査研究費（ 創世下関 ）出張報告書

令和 4年 4月 30日

<p>氏 名</p> <p>吉田真次・阪本祐季・亀田博</p> <p>井川典子・林透・福田幸博・</p> <p>江村卓三・吉村武志・濱崎伸浩</p>	<p>視察項目</p> <ul style="list-style-type: none">・保育料の無償化・病児保育
<p>期 間</p> <p>令和4年 4月19日から 令和4年 4月20日まで</p>	<p>視察先</p> <p>明石市中崎1丁目5番1号 明石市役所</p>

視察概要・意見等

明石市は、子育て支援5つの無償化等、子育て支援の様々な事業を実施し、一番子育てがし易い街と言われています。

下関市も親の所得に関わらず、全ての子どもがサービスを受けられることによって、経済的な負担軽減や人口増加、出生率の上昇に繋がる施策の提案をするために、無償化に至る経緯や財源、保育士の確保等無償化によっておこる諸議題への対処を伺った。

又インクルーシブに関しても条例を作るなど、積極的に進めている。

国も多様なニーズを抱えた保護者や子どもへの支援を大きな柱として自治体に示している。

下関市は、まだ具体的施策は示されていない。しかし、数年前から市立大学において、講座や相談支援部門の取組は始めている。高い専門性を維持する研修が必要不可欠と考える。一般的にインクルーシブの概念の浸透はまだなので、周知することが必要であり、下関から始める具体的施策を早く着手する気概が必要だと感じる。視察を受け、明石市と下関市の比較資料を作成し、会派施策提案に結び付ける。

(別紙参照)

① 科 類 檢 查 表 下 閱 比 較 明 石

あかし市全体で子育てサポートする取り組みは産前の妊婦の時期から産後、そして子育て中の家庭に寄り添う支援を豊富に取り入れている。

明石市

妊婦訪問

保健師、助産師が家庭に訪問し妊娠期の妊婦さん全員の面談。

産前・子育て応援ヘルパー派遣

妊婦への臨時特別給付金
1人あたり10万円支給

産後ケア事業

乳房ケア、育児相談などを宿泊型(医療機関)、訪問型(自宅)で利用できるママのための支援。訪問型は初回無料!!

ブックスタート
4か月健診で絵本をプレゼント

おむつ定期便

子育て経験のある配達員が生後3か月～満1歳の家庭に毎月子育て用品を届ける支援

子育てスタート応援事業

生後6か月までの乳児がいる家庭へ応援券(ヘルパーサービスを受けられる)を配布

新生児訪問

生後2ヶ月までのすべての子どもの家庭を訪問

下関市

産前

出産

産後

妊娠・子育てサポートセンター
母子保健コーディネーターが妊産婦さんの相談を受け必要なサービスに繋げる相談窓口。

両親学級

パパ、ママで参加
妊娠6か月以降～

赤ちゃんの駅

乳幼児を連れた保護者が外出中におむつ替えや授乳に立ち寄ることが出来る施設

産後ママとベビーのためのケア事業
授乳や育児に関する助言や指導、心身のケアなどを産婦人科に宿泊して受けることが出来る

こんにちは赤ちゃんがいる

生後4か月までの赤ちゃんがいる家庭を訪問。発育状況や母乳に関する相談へのアドバイス。絵本をプレゼント

産前・産後の家庭への支援はいくつかあるが、市から悩みや相談事を抱えた家庭へのアプローチが少なく、相談を待っているような印象を持った。自分から電話をしにくい、今のご時世出かけることに抵抗があるなど、「孤育て」が増えている今、市から家庭へ寄り添いの手を差し伸べる必要があると感じた

支援が必要な子どもを早期に見つけ必要な支援に繋げるために、妊娠期から寄り添いの機会を設けて妊婦支援を行っている。

明石市

- ・全28小学校区44か所(全小学校区で実施)
- ・これまでに1万食以上を提供
- ・テイクアウトやデリバリーも行う(コロナ禍の為)

明石市が 設立

あかしこども財団
運営サポート

【助成金、人材育成、PR など幅広く支援】

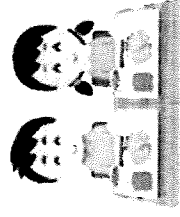
助成金

備品費年間5万円
運営費2万円
テイクアウト3万円

PR

HPで各子ども食堂
の様子を掲載
(こども食堂図鑑)

- ・市が子ども食堂への支援を積極的に行っている
- ・こども食堂図鑑で市内の子ども食堂の活動状況や様子などがわかるように写真を載せ子育て家庭への周知



下関市

- ・市内に24か所
- ・下関市が子ども食堂の開設を把握するため届け出制度を設け、食品衛生などの助言を行う
- ・子どもの居場所支援事業

→市と連携協定を結ぶ必要がある

総額2万4千円相当の食材や教材
を年4回に分けて提供

下関市の子ども食堂の活動や存在自体を把握できるようなものがあまり存在しない



山口県のこども食堂支援センターのHPには掲載されているが情報が少なく感じた...

- ・地域の子ども食堂の状況や活動内容、写真などを掲載することで、興味を持っていた家庭、存在は知っているが利用したことがない家庭の参加につながる。
- ・人員不足や、運営費の確保など子ども食堂での課題を示し活動に賛同しボランティアで手伝ってくれる地域住民や、企業に呼びかけるシステムを作る。

【あかし市民図書館】

2階	大型書店
4階	あかし市民図書館
5階	こども図書館

平日夜9時まで、
土日は夜7時まで開館

貸出冊数
300万冊を突破

移動図書館2台で
市内を月1巡回

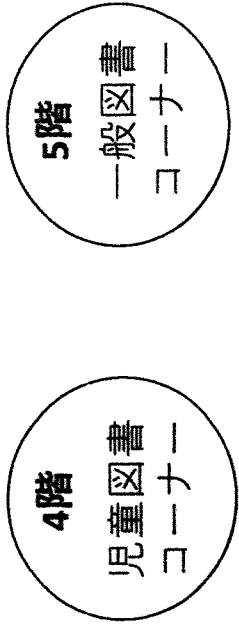
車いすやベビーカーも通り
やすいように本棚を配置

図書館スタッフが3742冊の絵
本を届ける(コロナで休館中)

図書館・小中学校で
読書バリアフリー機器整備

子どもやお年寄りまで幅広く図書館という誰もが利用できる場所から、絵本を通しての支援が行き届くような市を指している。

【下関市立図書館】



9時から19時
まで開館

貸出冊数
93万(2020年)

移動図書館1台
2022年リニューアール

車いすやベビーカーも通り
やすいように本棚を配置

無人書籍受取りロッカー

- ・本の蔵書数や図書館の規模などは明石の方がはるかに多いが、図書館内の設備や取り組みなどはあまり変わりなかった。
- ・図書館以外の絵本を通しての活動が盛んで、新生児から絵本に親しむことが出来るような取り組みや、コロナ禍などの外出が困難な家庭にも寄り添う取り組みが下関にも必要だと感じた。

②

林業經營學上・石

下関市

●市としての取り組みを見つけれず

- ・下関市立大 相談支援部門の取り組み
- ・王司まちづくりの取り組み
などインクルーシブというワードでヒットするものが上記くらいで少ない

●“バリアフリーなまちづくりへの取り組みはあるものの、インクルーシブという概念の浸透はまだまだこれから

・インクルーシブに関してかなり遅れをとっている印象

・取り組みについてのPRが全体的に足りていない
カフアルで様々な世代に読みやすいパンフレットの作成は周知のために効果的であると思う

・全体的に政策や取り組みが後手後手、県内初、全国初といった先進的な取り組みに着手していく明石の国を待たず明石から始める、明石から全国に広げる気概が下関市には必要ではないか

明石市

すべくのひとに“やさしい”まちづくりを推進

①SDGs未来都市に選定(県内初)

→持続可能な社会実現に向け高い目標を掲げ、「環境・社会・経済」の三つの価値創造実現を目指し、地域創生につながる「自治体SDGs」として戦略的に取り組んでいる地域に選ばれる

②先導的共生社会ホストタウンに認定(関西初)

→先導的かつ先進的にユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーの取組を総合的に実施する共生社会ホストタウンに選ばれる

③あかしSDGs推進計画

→SDGsの理念を反映した次期総合計画を策定、全市的な取り組みを推進

④あかしインクルーシブ条例

→すべての人が安心して暮らせるインクルーシブなまちづくり実現のための、今後の指針となる新たな条例づくり
・インクルーシブについて、条例をまとめたパンフレット作成し市民へ周知